



## ▼ 平成23年度定期総会

平成23年5月21日(土) 16時より花びしホテルにおいて定期総会が執り行われました。

議案審議に入る前に河村副会長より挨拶があり、JAZZ井口議長のもとに第1号議案から順次審議をすすめ120名の会員に対し40名の出席および60名ほどの委任状により議案の全てが滞りなく承認されました。

中でも第6号議案の役員改選については、増田副理事長より、須田会長が体調を崩され辞任したことを受け現副会長である河村隆平氏を会長に、また、新副会長には野田慶蔵氏を理事会で決している旨を議場に発し可決されました。

その後17時より、来賓函館海上保安部次長小林様 函館市空港港湾部長高橋様をお招きし懇親会が開催されました。

この期に函館入港をしていたフランス、ニュージーランドの艇にも参加いただき総勢50数名で盛会のうちに終了致しました。会の最後には出席者全員での記念撮影をし、老後の思い出がまた一つ増えました。

## ▼ オープニングレガッタ

平成23年6月5日(日)今年一発目のレースが開催です。例年のことではありますが、参加艇が少ないのでチャンスです、ここで入賞しておくとな後が楽ですよ。小学生の子供をお持ちの方は運動会とバッティングしちゃったかも?

今年は!と思いの貴方、是非ご参加くださいますようお願いいたします。

同日オープニングレガッタ終了後、いよいよ新艇『キナンボ』のお披露目(進水式)です。

日本酒・焼酎・ビール担いでこぞってお集まりください。

いっそのこと「キナンボ記念オープニングレガッタ」な〜んてね。

## \*\*\*アンカーライト\*\*\*

### 第12話 帆船 「あこがれ」の話

現在日本には帆船といえる船がいったい何隻あるんだろう。拙の知っている限りでは「日本丸」「海王丸」「あこがれ」「海星」「シナーラ」くらいでしょうか。このうち「海王丸」「あこがれ」「海星」はトレーニングボートとして一般人を受け入れている。

その昔、まだ社会がそこそこ景気が良く余裕があったころ、拙の会社でも自主研修企画を受け入れていたことがあった。幸運にも拙の出した企画がとおって帆船「あこがれ」にてセイルトレーニングを受ける機会を得た。

帆船「あこがれ」は大阪市が青少年育成を目的に所

有運営している総トン数362トンの中型帆船である。ダイクルーズから長期クルーズまで多彩なメニューがあるので興味のある御仁はネットで調べてみてください。拙の場合は2泊3日コースで、大阪港を出て小豆島、淡路島と回ってくるもので老若男女30人ほどが入り混じってトレーニングしながら遊んできた。

初めての瀬戸内海は11月中旬とはいえ気温も海水温も暖かく、天候にもそこそこ恵まれ実に快適な航海でした。トレーニングの内容はマスト登りからセイルアップ、タック、ジャイブなどの操船。炊事、掃除(タンツウ)、ワッチ、ヘルムスと船上生活のすべてを体験できる。夜はゲームで大騒ぎし、飽きることなく楽しく有意義が毎日3日間があつという間に過ぎた。

セイルトレーニングの最大の目的は操船を習得するものではない。海、空、風、大きくいえばこの地球、宇宙を身近に感じ船内での共同生活をとおして人と人との絆を深め、自分自身を見つめる場なのである。

(カッコイ) 実際同じ班にいたすこし引きこもり状態の小学生が初日はまさに借りてきた子鼠だったものが日ごとに変わっていき、最終日には貸し出しマンガース状態までなった姿を目のあたりにしてセイルトレーニングの有意義さを肌で感じたものだ。拙はといえば当事、道東勤務であり鬱憤の塊状態であったが3日間酒をやめ、船上生活が心身に潤いをもたらし日ごろのストレスの発散になった。

我が協会も「あこがれ」とまではいかなくともジュニアや一般に対してもっともっと積極的な普及活動を行い、海の楽しさや自然との関わりを伝えていかなければと思う今日この頃である。ふっと昔を思い出し柄にもなく考えてしまった。酒ばっか飲んでいる場合じゃあないんですよ。どーもスイマセン。

## 松崎 勉氏を偲んで

この世に生を受けた者は誰でも迎えなければならぬ浄土への旅路。去る5月27日午後16時28分南北海道外洋帆走協会顧問松崎勉氏が旅立たれた。

北海道セーリング連盟会長他南北海道外洋帆走協会顧問、NPO函館セーリング協会理事長も歴任され北海道の多くのセーラーにとっては天命とは言え本当に惜しい人を亡くした。

その功績も文部科学大臣賞や北海道スポーツ功労賞を始め数え切れない賞を授与されている。

また、馬主としても名高くでJRA函館競馬場の改築工事では地元の業者にできるだけ仕事を落とすよう中央に掛け合うため奔走したようだ。

その結果と言うか葬式会場の御供花の宛名も立派で各方面から多くのお花で飾られた。

祭壇の写真は元氣な頃の自然ないつもの笑顔で会場に御列席された方々に今にも語ろうというお姿であった。(俺の人生順風満帆だった!!)

故人となった松崎氏であるが功績を覗くには、函館市松崎勉とPC入力し検索すれば数え切れないほどの航跡がヒットする。そのデータは永遠に残るであろう。